

令和6年度 東京都内湾水生生物調査 10月稚魚調査 速報

●実施状況

令和6年10月1日に稚魚調査を実施した。天気は曇りのち晴で、気温は24.2～25.8℃であった。調査地点は北の風、風速1.8～3.7mであった。調査当日は大潮で、干潮は10時19分、満潮は16時32分であった(気象庁のデータ)。

全地点において、シロギスが出現した。

	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚	お台場海浜公園
作業時刻	9:20-10:27	11:16-12:45	13:10-14:25
水温(℃)	24.7	24.4	25.6
塩分(-)	4.4	26.5	23.2
透視度(cm)	64.0	28.0	>100
DO(mg/L)	6.1	3.4	5.4
DO飽和度(%)	74.9	47.8	75.6
波浪(m)	0.1	0.1	0.2
pH(-)	7.3	7.8	7.7
水の臭気	無臭	無臭	微下水臭
備考			

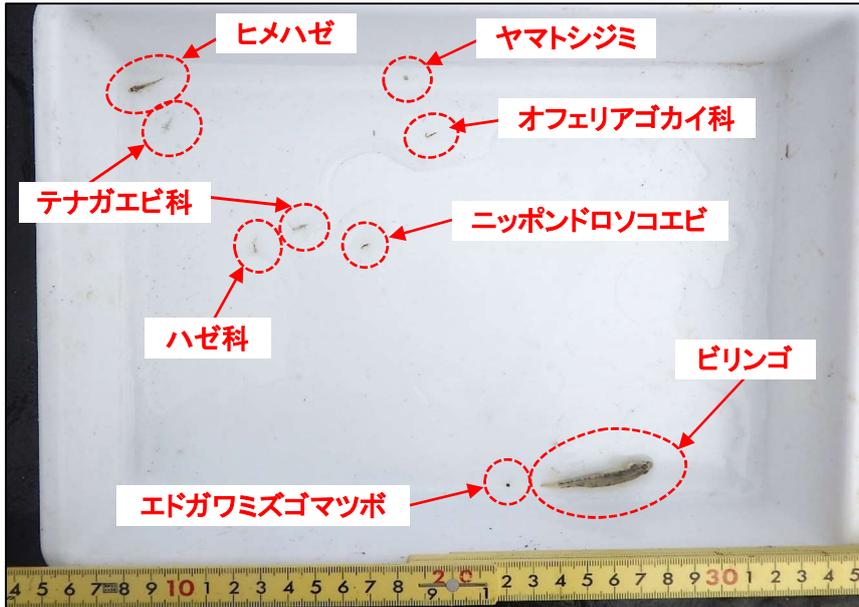
●主な出現種等 (速報のため、種名等は未確定)

主な出現種等	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚	お台場海浜公園
魚種 (多い順 <sup>注</sup> )	ピリンゴ(r)	シロギス(c)	クロサギ(c)
	ヒメハゼ(r)	コノシロ(+)	ピリンゴ(c)
	ハゼ科(r)	シログチ(r)	イシカワシラウオ(+)
	シロギス(r)	コトヒキ(r)	シロギス(+)
		チチブ属(r)	サツパ(+)
魚類以外	テナガエビ科(r)	ニホンイサザアミ(G)	ニホンイサザアミ(m)
	エドガワミズゴマツボ(r)	シラタエビ(m)	シラタエビ(r)
	オフェリアゴカイ科(r)	エビジャコ属(m)	アキアミ(r)
備考	他にニッポンドロソコエビ、ヤマトシジミ等が採集された。	他にタイワンガザミが採集された。	他にコトヒキ、ヒメハゼ、ガザミ属、ゴカイ科等が採集された。

注) 表中の( )内の記号は大まかな個体数を表す。

G:1000個体以上、m:100~1000個体未満、c:20~100個体未満、+:5~20個体未満、r:5個体未満

# 森ヶ崎の鼻 採取試料



羽田空港北側にある干潟。干潮時でも周りは「海」に取り囲まれているため、岸から歩いて入ることはできない。

●主な出現種等 ※写真のスケール1目盛:1mm

**ビリンゴ**

マハゼと並ぶ東京湾を代表するハゼの仲間。淡水の影響を受ける河口付近の干潟に多い。アナジャコ等の甲殻類の巣に産卵し、稚魚は成長するにつれて汽水から淡水域に移動する。産卵期は早春。

**ヒメハゼ**

内湾や干潟域の砂底や砂泥底に生息する。砂に潜る習性があり、体の模様も砂や砂利の色にそっくりである。産卵期は5月から9月で、二枚貝の貝殻の中に産卵する。下顎が上顎より突出しているのが本種の特徴。

**ヤマトシジミ**

殻長 4cm ほどになる。汽水域の砂底から泥底に生息するが、河口域にいるものは出水等の影響を受けやすい。

**ニッポンドロソコエビ**

体長 1~2cm ほどになるヨコエビの仲間。砂底や砂泥底の表面近くにトンネルを掘って生活する。東京湾では最も普通に見られるヨコエビの一つ。

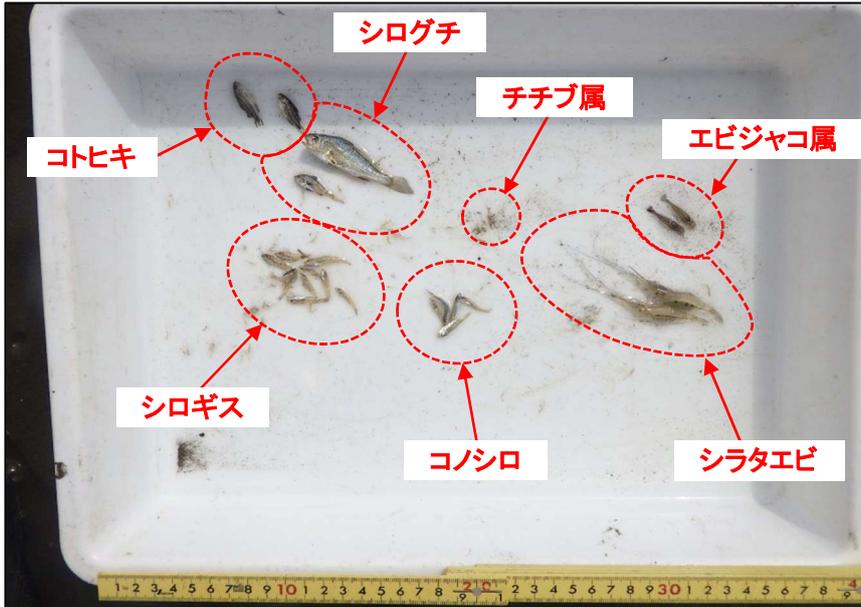
**テナガエビ科**

河川の淡水から汽水域に生息する。産卵期は5月から9月で、卵は雌に抱えられて過ごし、ゾエア幼生としてふ化する。その後脱皮を繰り返し稚エビとなる。成長するにつれて雄はハサミ脚(第2歩脚)が長くなる。

**エドガワミズゴマツボ**

殻長 3mm にも満たない微小貝。卵形で厚めの殻を持つ。内湾の河口域の干潟泥底に生息する。本調査では5年ぶりの出現(令和元年に前調査地点の城南大橋で出現)となった。別名:ウミゴマツボ。

# 葛西人工渚 採取試料



東京湾奥にある広大な人工干潟。野鳥等保護区域のため、一般の立ち入りが禁止されている。

## ●主な出現種等 ※写真のスケール1目盛:1mm

**チチブ属**

ずんぐりとしたハゼ科の仲間。雑食性で、転石やカキ殻の間等に多く見られる。東京湾では6月から9月が産卵期となり、干潟域や人工海浜等で孵化した大量の仔魚が浮遊生活を送る。

**シロギス**

東京湾では湾奥から外湾にかけての砂浜海岸等で多く見られる。稚魚は動物プランクトンやアミ類を食べて成長する。警戒心が強く、危険を感じると砂に潜る習性がある。産卵期は5月から10月。

**コノシロ**

内湾や河口域に生息する。産卵期は春から初夏で、孵化した仔魚は内湾の干潟域等の浅所でも見られる。体長10cm前後のものはコハダと呼ばれる。

**シログチ**

泥底から砂泥底に生息する。口の中が白く、鰓蓋に暗色斑があるのが特徴。浮袋を使ってグーと鳴くこともある。東京湾ではイシモチと呼ばれる。

**コトヒキ**

東京湾では、湾奥から外湾にかけての沿岸浅所や河口域で見られる。産卵期は5月から10月。浮袋を使ってぐうぐうという音を出し、これがコトヒキ(琴引)の名前の由来となっている。

**タイワンガザミ**

浅海の砂底や砂泥底に生息する。甲幅15cmほどになる。成熟した個体では雌雄で体の模様が異なり、雄は脚が美しい青紫色になる。雌は全体的に暗緑色。2000年代以降、東京湾で数を増やしている。

# お台場海浜公園 採取試料



水際数 m で急に深くなる人工の渚。レインボーブリッジのたもとにある。

## ●主な出現種等 ※写真のスケール1目盛:1mm

**クロサギ**

砂底域に生息する。前方に突出させた口を砂底に突っ込み、多毛類や藻類等を食べる。仔稚魚の群れは漁港でも確認されるが、東京湾奥ではあまり見られない。

**サツパ**

東京湾では内湾を中心に全域で見られ、特に内湾の浅所や河川の河口域の砂泥底に群れで生息する。産卵期は主に夏。体長7~8cm 前後で成熟する。

**シロギス**

※解説は葛西人工渚を参照。

**イシカワシラウオ**

尾柄に1対の黒点上下に並んでいるのが本種の特徴。海水魚で、沿岸域に生息する。本調査では5年ぶり(令和元年に葛西で出現)、お台場においては初出現となった。

**マハゼ**

河口域を中心に生息するが、河川淡水域に遡上することもある。春から秋にかけて干潟で成長し、徐々に深場へと移動する。産卵期の冬から初夏にオスが河口付近の砂泥底に巣穴を掘り、その中にメスが産卵する。

**シラタエビ**

青く長い触角を持ち、額角がトサカ状に盛り上がる。汽水域を主な生息場とし、干潟にもよく出現する。成熟した個体では、体側に青色斑が現れることが多い。